

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676300108
法人名	医療法人 愛誠会
事業所名	ふれ愛の家 おじやったもんせ
訪問調査日	平成19年11月28日
評価確定日	平成19年12月26日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]  
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]  
「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4676300108
法人名	医療法人 愛誠会
事業所名	ふれ愛の家 おじゃったもんせ
所在地	曾於市大隅町中之内8842-24 (電話) 099-482-4398
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成19年11月28日

## 【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 8年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	6人, 非常勤 4人, 常勤換算 9.6人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,350~59,850 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900円	

### (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	7 名	男性	名	女性	7 名	
要介護1		名	要介護2		名	
要介護3	1	名	要介護4	2	名	
要介護5	4	名	要支援2		名	
年齢	平均	87.9 歳	最低	67 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 愛誠会 昭南病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは公共機関や教育機関、また商店などから程よい場所に位置している。建物は1階建ての民家改修型となっているため、地域密着型サービスとして周囲の環境に全く違和感のない造りとなっている。またホーム内の雰囲気も非常に家庭的で落ち着いた雰囲気となっている。平成8年2月に開設され、11年以上という全国的にも歴史のあるホームとして先進的に様々な取り組みがなされている。また、同一法人の病院や老人保健施設等との連携によって、重度化や終末期における看取り体制についても確保されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「入居者一人ひとりに合わせた居室の環境作り」については、ご家族へ協力を依頼してその人らしい生活の場作りを進め、季節ごとに壁に貼る物を替えたり、趣味の物を取り寄せて触れ合う時間を持たせているなどの改善が見られる。「地域の人たちとの交流促進」については、運営推進会議の定期的な実施等が効果を上げており、今までにない地域の方々との交流が生まれるなどの改善が見られる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者及び管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義をよく理解しており、職員も実際に自己評価に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回行われている運営推進会議では、地域・施設・ご家族・行政の各代表を交え、実情を十分に知っていただく為に毎回テーマを絞って実際のケアについて周知されている。また防災訓練を兼ねた話し合いなど活発な意見交換がなされており、そこでの意見・要望がサービス向上に活かされている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月の面談や、ご家族主導による家族会より、(職員が居ない状態での)意見交換会における苦情や意見を伝えていただいている。また料金支払い窓口がホーム以外の施設であり、そこに苦情箱を設置してホームに対する匿名性を保つ配慮がなされており、それらを運営に反映させている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方が菜園作りの手伝いに来られたり、地元の小中学生と社会科見学・職場体験を通して、入居者との触れあいの場が持たれている。また、老人会からお誘いがあったり、七夕祭りなどの催し物を開催して、地域の方々ホームに立ち寄れる機会も設けている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念(モットー)として「ゆっくり いっしょに 生活を楽しむ」を掲げているが、現在、全スタッフと協議して、地域密着型サービスとしての役割を踏まえた理念の見直し作業を行っている。		これまでの理念に加え、さらに地域密着型サービスとしての理念作りに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、月1回のミーティングで理念の確認を行い、また随時、理念についての共有が図られており、日々のケアの中において実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方が菜園作りの手伝いに来られたり、地域の小中学生と社会科見学・職場体験を通して、入居者との触れあいの場が持たれている。また、老人会からお誘いがあったり、七夕祭りなどの催し物を開催して、地域の方々がホームに立ち寄れる機会も設けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義をよく理解しており、職員も自己評価に実際に取り組んでいる。前回の外部評価を活かして具体的な改善計画シートを作成し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行われている運営推進会議では、地域・施設・ご家族・行政の各代表を交え、実情を十分に理解してもらう為に毎回テーマを絞って実際のケアについて周知されている。また防災訓練を兼ねた話し合いなど活発な意見交換がなされており、そこでの意見・要望がサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人内での研修会などで市職員が参加するときに交流を深めたり、ショートステイ事業の関連で、時々居室の空き状況などの連絡を行っている。	○	2カ月おきの運営推進会議での交流に加え、通常の入居やショートステイ事業における居室の空き状況の紹介・連絡などを随時及び定期的に行うなど、市町担当者と「日常的に」行き来する機会作りが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回入居者のご家族と面談する機会を作り、そこで最近の様子(経過記録)やカンファレンスによる評価内容などの確認、さらにご家族からのコメントを記入してもらっている。遠方のご家族に対しては、3ヶ月に1回の家族会において同様の報告が行われている。金銭管理については、台帳による確認が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の面談や、ご家族主導による家族会での(職員が居ない状態での)意見交換会で苦情や意見が出されている。また料金支払い窓口がホーム以外の施設であり、そこに苦情箱を設置してホームに対する匿名性を保つ配慮がなされており、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者が馴染みの職員による支援を受けられるように、異動や離職等やむを得ず代わる場合は、3ヶ月前、最低でも1ヶ月前から引継ぎ期間を取り、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては、ホーム独自で実務における習得度評価表を作成し、それに基づいた育成計画を作成している。また、研修についても、計画に基づく母体施設での研修や外部研修、その他月1回法人内の「高齢者住宅会」での勉強会など、働きながら参加できる機会を作っている。参加できない場合はミーティング等で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流する機会として、大隈地域の連絡会に参加しそこで情報交換などを行っている。また、他ホームなどからの業務相談や実習生受け入れなど随時受け入れている。		他ホームからの受け入れるシステムは十分に整っているため、今後は更なる交流として、近隣のホームと共に勉強会を開催する等、自ら他ホームへの働きかけを行うためのシステム作りが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な場合はホームに来ていただいているが、出来ない場合は事前にホーム職員が入居者やご家族に面談を行い、徐々に馴染めるような工夫をしている。また、入居以前に関わっていたスタッフ等も訪問するなどの機会も設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者一人ひとりについて入居以前に行っていた趣味や仕事を把握して、その内容に即した対応やケアを心がけており、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にする関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりに担当を決めており、日々の生活の中でちょっとした変化や表情の気付きを細かく観察している。その状況を経過記録等に記録し、カンファレンスなどの話し合いにおいて職員全員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者がより良く暮らせるように、ご家族の要望を取り入れながら関係職員と話し合い、その意向・課題などが反映された介護計画が入居者毎に作成されている。また、職員だけでなく、ご家族が行うための援助計画も明確に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は通常6ヶ月の期間であるが、毎月カンファレンスによる見直しを行っており、毎月ご家族の面談・同意を得て随時内容が追記されている。また、計画に対する評価も10日間～1ヶ月にかけて行われており、現状に即した対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算や短期利用共同生活介護(ショートステイ)があり、また本人やご家族の状況、その時々要望に応じて、通院送迎・往診依頼・リハビリの為の療法士の訪問依頼等、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は希望に応じて随時対応しており、協力病院の他、眼科・婦人科・皮膚科など、入居以前に掛かっていた病院に受診できるようにしている。その際、ご家族が同行して受診されているが、出来ない場合は職員が対応する。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の状況に応じて、適切な段階で医師・施設長・ご家族・職員とよく相談が行われており、終末期に向けた適切な方針の共有が行われている。また、状態変化があってもその都度話し合いによる方針の確認がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるようなことがないようにプライバシーマニュアルがあり、それ以外でも入居者個々に応じた対応が行われている。また、個人情報保護に対する取り組みも適切になされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるものの、食事の時間帯やスムーズに食事ができるような配慮など、一人ひとりのペースを大切に、その日を快適に過ごせるような支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には食材の皮を剥いてもらうなど、食事の準備と一緒に手伝ってもらっている。食事形態は、入居者一人ひとりに合わせたものにしており、食事の時間は、入居者と職員と一緒に食事できるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日随時入浴ができるようにしており、職員の都合で決めてしまわずに、その日の入居者の体調や状況に合わせて入浴を楽しめるように支援している。また重度者の方で排便等があれば随時入浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者ができる事はしてもらったり、一人ひとりの生活歴に応じて、趣味や楽しみごとを職員と共に楽しんでいただけるような配慮を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や入居者の体調に応じて、週1回程度近所への散歩など日常的な外出支援を行っている。また、重度者の方に対してもテラスで日光浴を行っていただくなど、可能な限り配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。運営者及び全ての職員が、居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアの実践をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定を含めたシミュレーションを3ヶ月に1回、防災訓練についても年2回実施している。最近、運営推進会議において地域住民を含めた火災発生時の訓練を行い、職員だけでなく地域住民がどのような協力が行えるかの想定訓練も行われ、意見交換や協議が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者全員の毎日の食事摂取量や水分摂取量が記録されており、栄養バランスについては2週間に1回程度、同一法人の管理栄養士による指導を受けている。また定期的な体重測定も行われており、必要に応じて医師からの指示も受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	要所に季節感の感じられる掲示物や花が飾られていたり、ゆったり出来るソファやテラスが設置されており、入居者が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者が馴染みの家具や小物、また趣味や好みのものを多数持ち込まれており、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		